



福岡県師会報

公益社団法人 福岡県鍼灸マッサージ師会

No.182

福岡市博多区神屋町2-4 フラワービル2階
TEL 092-409-5877 FAX 092-409-5878

謹

賀

新

年

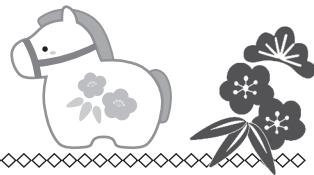


Contents

◆(公社) 福岡県鍼灸マ師会 仲嶋会長新春のご挨拶	2
◆福岡県鍼灸治療学会・生涯研修会レポート	4
◆スポーツ大会ケアボランティア報告	10
◆【特集】新人開業鍼灸院インタビュー	13
◆【特集】この時期おすすめ「花粉症の鍼灸治療」	16
◆健康フェアレポート	18
◆事務局より	24



新春のご挨拶



新年あけましておめでとうございます！皆さまが穏やかに新年を迎えたことを心よりお慶び申し上げます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

新年早々ではございますが、現在の鍼灸マッサージ業界が抱える課題について、率直にお話しいたします。

1. 業界を取り巻く現状と課題

近年、全国的に会員組織率の低下が続き、啓蒙活動や公益活動が十分に行き届かない状況が続いています。「会費を払っても恩恵が感じられない」と退会者が増える負の循環が起きており、都道府県・中央団体ともに影響が出ています。

組織率低下は行政や政治団体への働きかけを難しくし、保険取扱や職域の確保、他職種からの信頼維持にも影響を及ぼしかねません。また、国内唯一の学術学会である全日本鍼灸学会の会員減少も深刻で、学術的基盤の弱体化が危惧されています。

福岡県においても同様で、行政や政治と交渉ができるのは公益社団法人である福岡県鍼灸マッサージ師会があるからこそです。この団体が弱体化すれば、陳情活動は行えず、業界の存続・安定・発展が難しくなります。

2. 組織の強化に向けて

今後の活動には、組織力と学術的根拠の強化が欠かせません。

すでにご入会いただいている皆さまには、周囲の未入会の先生方にぜひ入会をご案内いただきたいと思います。勤務先で働く先生には「準会員制度」についてもぜひお伝えください。

3. 各部の主な活動紹介

現在、資質向上と活動の多様性を重視し、以下の取り組みを行っています。

● 学術部

臨床にすぐ役立つ知識・技術の提供を目的に、各分野の講師を招いた県治療学会、県内各区での地区研修会を実施しています。多くのベテランの先生が指導を行い、明日からの臨床に役立つ学びを提供しています。

● スポーツケア委員会

福岡マラソン、福岡駅伝、地域スポーツ大会（バレー・バドミントン等）でのケア活動を10年以上継続し、信頼と実績を築いてきました。選手から院紹介の依頼



仲嶋 隆史

があるほど評価されており、先生方が積極的に現場に参加することで、公的な広報活動として大きな効果が得られます。募集はHP・SNSに掲載していますのでぜひご参加ください。

● 保険部

マイナンバーカード関連情報や療養費の取り扱いについて積極的に案内しています。療養費制度は毎年改訂があるため、各区での説明会には必ずご参加ください。今後、電子カルテ導入の可能性もあり、会員向けのサポート体制を整えてまいります。

さらに、令和9年をめどに国民健康保険料の都道府県単位化が予定され、「はりきゅう助成制度」の存続が危ぶまれています。行政や議員の方々と情報交換を進め、継続に向けた協議を行っていきます。

● 法対部

国家資格を持つ施術者が安心して業を行えるよう、福岡県庁医療指導課と連携し、違法広告・違法業態への対応を定期協議しています。

● 広報普及部

会報誌やメーリングリストで旬な情報を迅速に発信しています。大切なお知らせも多いので、必ずご確認ください。

● 青年部

学生や若手会員との交流会を行い、悩み相談・経験共有を通じて鍼灸の魅力ややりがいを伝えています。

4. 会の維持・発展のために

これらの活動には当然ながら費用が必要です。現在、会員は約400名弱であり、今後の活動維持には会費の値上げか会員増加のどちらかが必要となります。私は組織力の強化を目指し、後者の会員増加に力を入れたいと考えています。行政や政治団体への陳情には「数(組織力)」が欠かせません。患者さんの声の後押しも必要です。強固な福岡県鍼灸マッサージ師会なくして、この先の課題は乗り越えられません。

5. 最後に

会員の先生方へのお願いです。

日頃から県師会の魅力を周囲の先生方に伝え、1人でも多くの仲間が増えるようお力添えをお願いします。そして、さまざまな課題を“組織力”で乗り越えられるよう、今年も共に力を合わせて前に進んでいきましょう。

本年が皆さんにとって実り多き一年となりますよう、心より祈念いたします。

第 187 回 福岡県鍼灸治療学会兼 第 96 回生涯研修会レポート

はじめに：社会と未来を見据えた学びの二日間

去る令和 7 年 12 月 6 日（土）・7 日（日）に開催された本学会は、「ひとり鍼灸院の経営」という実践的なテーマから、「災害支援」という公衆衛生的な役割まで、私たち鍼灸マッサージ師の社会における役割と未来について深く考える機会となりました。特に、二日目の講演では、大規模災害の経験から得られた「真に被災地で求められる鍼灸マッサージ師の在り方」について、貴重な知見が共有されました。

【1日目】ナイトセミナー報告：ひとり鍼灸院の「リアル」と実践

1. 【オンライン市民公開講座】コロナ差別と医療専門職の役割

「私たち一人ひとりができること～当事者意識をもって考えるコロナ差別～」の DVD 視聴後、登壇者の一人である賀久先生から、実際の臨床現場で直面した危機対応のエピソードが共有されました。

- ・具体的な危機対応：来院後に患者さんが新型コロナウイルス感染症を発症した際の、保健所との連携、予約キャンセル対応について語られました。特に、他の患者や施術者が濃厚接触者と見なされるかどうかなど、保健所に確認した判断基準や必要な対応を、患者のプライバシーを守りつつ、患者に詳しく説明したという対応が紹介されました。
- ・教訓：この経験は、パンデミック下における危機管理能力と、正確な情報に基づき透明性をもって行動することで患者との信頼関係を維持する努力の重要性を示しました。



▲梶原先生、木下先生、賀久先生、
金納先生による座談会

2. 【臨床講習会】「ひとり鍼灸院のリアル」

(公社)福岡県鍼灸マッサージ師会会員4名(賀久先生、梶原先生、木下先生、金納先生)による座談会形式の講習会では、経営、臨床、そして初期研修に至るまで、ひとり治療家が直面する課題に対する具体的な回答が共有されました。

臨床スタイルと初期研修

- ・施術時間と料金：多くの講師から、患者一人当たりの施術時間は60分程度、施術料金は3,000円から3,500円程度という意見が多く見られました。一日の施術可能人数については、8人から15人程度という意見があり、価格帯や施術時間とのバランスの取り方が議論されました。
- ・施術方法の多様性：施術方法は、経絡治療、接触鍼中心、阿是穴、あるいは中医学など、講師それぞれのバックグラウンドに基づいた様々なスタイルが実施されており、ひとり治療家としての「自分の柱となる治療コンセプト」の重要性が浮き彫りになりました。
- ・服装と研修ルート：施術時の服装（白衣・ケーシー等）に関する考え方や、免許取得後の研修（病院への就職、親族の鍼灸院での勤務、弟子入り）に関する多様なルートが紹介されました。これは、初期の研修環境が、その後の開業スタイルや臨床観に大きく影響を与えることを示唆しています。

経営と会計・税務

- ・経営が軌道に乗るまでの期間：経営が安定するまでの期間については、1～2年くらいかかったという意見が多く、開業当初の資金繰りや集客の難しさが現実的に語られました。
- ・税務に関する判例：自治体の行うはりきゅう補助金に、消費税が課税されるかどうかに関する国税不服審判所の判例など、日々の経営に直結する会計・税務の具体的な話が話し合われました。

このセッションは、技術だけでなく、経営者としての多角的な知識と、多様な開業スタイルがあることを示し、参加者にとって自身の院の運営を見直す具体的なヒントとなりました。

【2日目】学生研究報告：理論の検証と臨床応用への視点

学生研究発表では、東洋医学の基礎理論を現代的な視点で探究する、意欲的な報告がなされました。

- ・「五色が五臓にもたらす影響第2稿」では、五行色体表を科学的な検証にかける試みから、プラセボ効果や被験者の心身の状態が結果に影響する可能性が示唆されました。
- ・「生姜灸による体温への影響について」では、生姜灸が体温に与える影響をサーモグラフィーで定量的に測定し、体幹部の温度上昇や末梢循環の改善を促す可能性が示されました。



▲福岡医療専門学校2年 亀山 莊太さん



▲福岡医健・スポーツ専門学校3年
兵頭 彩子さん

特集：災害支援の最前線から学ぶ—真に求められる鍼灸マッサージ師の役割

後半の3つの講演は、大規模災害の経験を共有することで、私たち鍼灸マッサージ師が社会で果たすべき役割の本質を浮き彫りにしました。

1. 業団による災害支援のパイオニアが語る（仲嶋隆史先生/矢津田善仁先生）

- ・多職種連携の深化：熊本地震以降、DSAM（災害支援鍼灸マッサージ師合同委員会）が他の医療団体と連携し、組織的な活動を行ってきた歴史と成果が報告されました。
- ・「支援者支援」の重要性：特に能登半島地震では、被災者でありながら復旧・復興に尽力する行政職員等への健康支援活動が重要視され、鍼灸マッサージ師の役割が「支援する側を支える」という新たな側面を見出したことが強調されました。

2. 災害時に求められた鍼灸マッサージ（三輪正敬先生）

東日本大震災を契機に発足した災害鍼灸マッサージプロジェクト（災プロ）の活動経験が共有されました。

- ・コーディネートの重要性：三輪先生は、災プロの活動を通じて、自らが鍼灸施術

を行う以上に、物資・人員の調整、他の支援団体や行政との連絡といったコーディネーター的な役割を果たすことが多いと報告されました。これは、現場では施術者以外の役割も求められており、組織的な支援においてその重要性が非常に高いことを示しています。

3. 避難所における鍼灸師の役割と貢献～心理的側面の観点から～(藤田洋輔先生)

- ・ストレスと鍼の役割：藤田先生の講演では、被災者が抱える心身の課題として、ストレスに対する身体の反応メカニズムが解説され、鍼灸がもたらすストレス軽減効果や自律神経系への影響が紹介されました。
- ・心理的側面への貢献：鍼灸師は、単なる身体症状への対応だけでなく、このストレス軽減効果などを活かし、不安や不眠といった心理的側面を背景とする諸症状へアプローチできること、そして心身のケアを通じて、避難者の心理的回復を支える専門職としての役割が紹介されました。



▲仲嶋先生、三輪正敬先生、矢津田先生



▲藤田洋輔先生

災害支援で共通して学んだ教訓

3つの講演を通じて、災害支援に参加する鍼灸師が心に留めるべき重要な教訓が共通して示されました。

1. 支援者支援の圧倒的な重要性：被災地の最前線で支援を行う行政職員や医療関係者は、自らも被災者であることも多く、猛烈に消耗しています。彼ら支援者を鍼灸マッサージでケアし続けることが、被災地全体への復旧・復興に大きな好影響をもたらします。
2. 専門性へのこだわりを捨てる柔軟性：災害支援の現場では、「鍼灸治療だけをやる」という発想では通用しない現実があります。医師が段ボールベッドを組み立てるよう指示されることもあるように、現場で切実に求められているのが物資運搬や環境整備であれば、専門知識以外の役割にも柔軟に対応することが、真に被災者の役に立つことに繋がります。「想いだけ」ではうまくいかないこ

とを肝に銘じ、求められている役割を正しく認識し協力する必要があります。

3. 多職種連携と正しい役割認識：災害支援は、行政、DMAT、他の支援団体といったありとあらゆる関係者と連携を取りながら行うものです。組織的な活動の中で、鍼灸師がどのような情報を共有し、チームの一員として機能できるかが鍵となります。

結語：社会に開かれ、柔軟に対応できる鍼灸マッサージ師へ

今回の学会で共有された知見は、私たち鍼灸師一人ひとりに、日々の「臨床・経営を見直す実践的なヒント」と、「社会との繋がり」、そして「柔軟な対応力」を求めていきます。

この学びを活かし、皆様の「明日からの臨床」、そして「社会に開かれ、真に求められる役割を果たせる鍼灸マッサージ師」としての活動の糧、としていただければ幸いです。

理事長表彰



生涯研修修了書を8年間に5回取得した者には、理事長表彰を行います。

なお、理事長表彰受賞以降8年間に、生涯研修修了証を5回取得した場合には、再度理事長表彰を行います。

研修会に先立ち、会長の仲嶋先生から矢津田先生、池田先生、金納先生へ授与された。

(学術部長：賀久 哲也)

令和7年度久留米地区（三区）研修会兼 第95回生涯研修会 報告

【日時】令和7年8月31日（日）13：30～16：30

【会場】くるめりあ六ツ門6F みんくるセミナー室（久留米市六ツ門町3-11）

【開催方法】会場対面のみ（実技あり）

【生涯研修単位】4

【内容】会員発表1 「経絡治療の実践」吉富泰彦先生（久留米師会）

会員発表2 「外関穴を使った治療」山田竹弘先生（久留米師会）

特別講演「太極治療の基礎と実技」山崎浩一郎先生（小郡師会）

【参加者】43名

【懇親会】17時から「松竹」にて

上記内容にて久留米地区（三区）地区研修会を開催いたしました。

まずは会員発表。一番手は久留米師会ピチピチの若手（？）吉富泰彦先生。福岡市の馬場先生のところでの修行を終え、久留米で開業してまだ2年。

しかしながら、とても落ち着いた講演に驚きました。経絡治療の基礎から実技までを丁寧に解説いただきました。

二番手は同じく久留米師会の山田竹弘先生。実際の臨床でよく使うという外関穴を使った治療。首肩の痛みや症状に対して、主訴としての施術というだけでなく、最後のおまけ的な治療としても、座位で「ぱっ」と施術するだけで、「抜けたように軽くなる」とのこと。まさに明日からすぐ使えそうな発表でした。

休憩を挟んで特別講演として、山崎浩一郎先生に太極治療について、しっかりご講演いただきました。山崎先生らしい、洋の東西を問わない多方面の情報のつまつたお話や、実際の施術の様子が分かる実技に、非常に学びの多い時間となりました。「肝脾腎俞穴」を主に使い気血循環のバランスを整えつつ、環跳穴などの局所も使いながら身体が柔らかくなっていくのが分かります。

吉富先生の脈の触れ方や取穴の様子、山崎先生の柔らかくてもビシッと点を捉える触診の技など、実際に間近で見られるのが研修会の醍醐味だとあらためて実感しました。

終了後は、久留米の老舗居酒屋「松竹」にて懇親会も開催。来年も懇親会まで、たっぷり久留米の研修会をお楽しみください。

（久留米師会 会長：梶原 旬矢）



▲吉富先生実技の様子



▲山田先生の講演



▲山崎先生実技の様子

【スポーツ事業委員より】

スポーツ大会ケアボランティア

● 福岡マラソン2025 EXPO・フィニッシュ会場活動報告 ●

活動場所	活動時間
11/7(金)・11/8(土):福岡市役所西側ふれあい広場	11/7(金):12:00~20:00 11/8(土):10:00~20:00
11/9(日) :志摩中央公園	11/9(日):10:00~16:00

11/7及び11/8は天気も良く、11月とは思えない暑さの中、11/7はケア人数240名、11/8はケア人数270名、11/9は惜しくも天候が不安定で雨風や急に晴れるなど、不安定な状況でしたが、139名のケアを実施。EXPO会場やフィニッシュ会場ではケア活動前に多少のアクシデントが起こったものの、無事に活動を終えた。

ケアの部位は足だけではなく、腰や肩回りなど、ランナーが訴えている部位や気づいた部位をケア（鍼施術やパイオネックスゼロ、ストレッチなど）することにより、ランナーから「いつもよりきつくななく、ゴールまで完走できました。」とのお声もいただき、嬉しく思うこと也有ったが、施術対応が上手くいかなかった件もあったため、課題として、次回、同じ状況でもうまく対応できるように研鑽していきたい。

選手に触れること、現場に出ることで「どういった症状が出た」「どういった状況で傷めた」など、多く診られるという点で若手・ベテラン関係なく経験値を貯めるいい機会だと思っている。是非来年はまた多くの先生に参加していただきたい。



▲11/9 活動写真・集合写真

トレーナー部会およびご参加いただいた先生方、ありがとうございました。また、各専門学校の生徒さん達にも感謝です。ありがとうございました。

またよろしくお願ひいたします。

追伸 福岡スポーツ鍼トレーナー部会部員募集の際は、皆様、是非ご検討の程、よろしくお願ひします。

(田中 潤)



▲11/7 活動写真



▲11/8 活動写真

【スポーツ事業委員より】

スポーツ大会ケアボランティア

● 第12回市町村対抗福岡駅伝 令和7年11月16日 ●

会場：筑後広域公園

部会から仲嶋先生、舟木先生、松岡先生、田中潤先生、田中巧先生、松方先生、大石先生、山口先生、田辺先生、要、県師会から定村先生、佐賀県から松枝先生、下津浦先生の13名でボディケアに参加しました。



▲記念写真

福岡県60市町村から選手が参加し
ブースの利用は近年では最多の利用数の130名ほどで鍼（場合によりパイオネックス）、ストレッチ・マッサージ、キネシオテープで対応しました。下半身の不調の訴えが一番多く次いで腰痛に対する施術の要望が多くありました。

以前、鍼を受けたが効かなかったという方や鍼をした事が無い方はマッサージを希望されて、鍼を勧めても断られる傾向が強いように感じました。

ケア中に「どの鍼灸院を選んで行けばいいのかわからない」などの相談があり「県師会等のホームページを見て、近くの鍼灸院に行ってみてください」と言いましたが、もう少し行きやすくなるような、伝え方や方法を考えた方がいいと感じました。



▲ケア風景

ちなみに総合優勝は福岡市でした！

(要 遼太)

【スポーツ事業委員より】

スポーツ大会ケアボランティア

● 日本マスターズ陸上競技選手権福岡大会ボディケア活動報告 ●



10月4～5日、11月3日に日本マスターズ陸上競技選手権福岡大会が博多の森競技場で行われました。

10月4～5日は短距離、投擲種目で11月3日は長距離種目が行われました。

今回はトレーナー一部会以外にも、仲嶋先生が以前、2023年福岡世界水泳マスターズに参加された鍼灸師の先生方へ呼びかけてください、全国から先生も集まり大変賑やかな活動でした。

マスターズ部門ですので、選手の年齢層は20代から90代と幅広く、どの選手もとても元気でした。全国から選手が集まり、多種目に出られる選手や、2日間続けて出場する選手も多かったです。

4日は悪天候に見舞われ、雷雨となり何種目か中止になりました。5日は天気が回復し、「前日に受けて良かったから、今日もお願いしたい」と言われる方や、ここで鍼を受けられると噂を聞いて来られる方も多く、アップ前に早朝から多くの選手に利用して頂きました。

3日は長距離の為、出場する選手も少なかったので利用者も少なめでした。

3日間通しての利用者は、選手の年齢層が高いため、長年の痛みに困っている選手が多い印象でした。

「鍼はやったことはないけど、この痛みが取れるのならやってみよう」など、前向きな言葉で施術を受けてもらいました。その場で症状が軽減され、とても喜んでいらっしゃった方のお住まいから近くの治療院を紹介する事もできました。

施術内容は鍼、テープニング、ストレッチなど選手に合わせて様々でした。

陸上競技は下肢の痛みを訴える方が多いですが、今回、投擲種目や手を大きく振るハードル走や走り幅跳びなど、肩や上半身の痛みも訴える選手も多く、また、体型も種目により様々で、施術する側としては新鮮で貴重な経験となりました。

10/4 → 150名

10/5 → 225名

11/3 → 26名

合計 401名の方が利用され、大変喜ばれていました。

(福岡スポーツ鍼トレーナー一部会：山口 千尋)



特集 1

新人開業鍼灸師インタビュー

特集企画「新人開業鍼灸師インタビュー」では、開業して間もない鍼灸師にインタビューを行い、鍼灸師を志したきっかけや今後目指したい事などを発信しています。

今回は、福岡市東区で開業されています 山口 千尋先生にインタビューを行いました。



【山口 千尋先生 プロフィール】

出身校：福岡医療専門学校

開業年：令和5年

やまぐち鍼灸整骨院

私がインタビューしてきました！

広報副部長：原口 明子



Q1

鍼灸師を志したきっかけは何ですか？

A

きっかけは部活動で治療をしてもらった時でした。治療の効果にもビックリしましたが東洋医学の神秘さにすごく惹かれ、この仕事がしたいと思うようになりました。



Q2

鍼灸院開業当初に苦労したことや、治療院運営での取り組みや工夫していることはありますか？

A

治療院を構える場所には時間をかけました。様々な方に気軽に来院できる場所で、とても気に入っています。

やりたいことに専念できる環境を作れたのは、卒業してから開業するまで、いくつかの職場を経験してきたことが大きかったです。



Q3

どのような患者様が来院されていますか？

A

女性が主ですが、小さい子からシニアの方と幅広いです。

また福岡トレーナー部会やジュニアクラブの活動でケアをした方が来院してくださっています。



Q4

長い勤務時間のようですが、疲労は溜まりませんか？

A

最近はお陰さまで予約が入ってくれるようになりました。

定休日はありますが、疲労が残ることもあり体調管理には気をつけています。母が受付に入ってくれたり、父が玄関前に可愛いお花を置いてくれたりと、院のために関わってくれるので助かっています。



Q5

最後に、新卒の若手に伝えたい事があれば教えてください。

A

自分の治療にひとつの軸を作ることが大切だと思います。

どうして鍼灸師になりたいと思ったのか・・・

そこにヒントがあると思います。



笑顔が素敵な明るい先生です！
施術中でも快く対応してくださいました。



広報副部長：原口 明子

受付の棚にはビッシリと鍼灸関係の本が並び、常に勉学を惜しまない方なんだと思いました。

とにかく患者さんのために・・
治療家としての覚悟を感じ、若手鍼灸師とは思えないオーラがありました。

今回は、山口先生にインタビューさせて頂きました。

次回は看板娘と評判のお母様にお会いしたいと思っています！
お忙しい中ありがとうございました。

この時期おすすめ「花粉症の鍼灸治療」

花粉症に対する鍼灸治療の中で、5分ほどの短い施術でも大きな効果が出る方法があります。ここでは、その治療方法のポイントと注意点を説明します。

● 治療で使うツボとやり方

花粉症には主に次のツボがよく効きます。

- ・大椎
- ・肩外俞
- ・膏肓

これらのツボで「痛みを感じる場所（圧痛点）」をしっかり探し、米粒の半分くらいの大きさの“透熱灸”を3～5壮ずつするのが基本です。症状に目のかゆみがある人には、さらに「肩髃」の多壮灸を加えるとよく効きます。

● 透熱灸は熱いが、ツボが合っていれば“心地よい痛み”になる

透熱灸は直接皮膚に当てるため、「熱そう」と思う方もいますが、“ツボが正しく合っている”と以下のように“気持ちよさ”があるのが特徴です。

- ・熱いけど気持ちいい
- ・しみるような感じ
- ・指圧されているみたい

逆に、

- ・逃避反射がみられる
- ・我慢できない熱さだけを感じる

こうした場合はツボが合っていないか、効果が出にくい可能性があるため、そのツボのお灸は中止するか、1壮だけにとどめます。

● 施術頻度と始める時期

- ・毎日行うと早く良くなるが、週1回でもよい
- ・花粉シーズンの2月に合わせ、10月頃から始めると効果的。2月に症状が出来ると十分な効果が得られにくい

● 透熱灸施灸時の注意点（必読）

透熱灸は「皮膚に痕が残るタイプのお灸（有痕灸）」です。

- ・ケロイドになることがある。ケロイドの多くは自然消退するが、自然消退せず、痒みや痛みが強い場合、隆起や発赤が目立つ場合にクレームやトラブルに発展する可能性もある。施術者はインフォームド・コンセントをしっかり行うことが必要。

患者には、次のような情報を前もって提示することが大切です。

- ・どれくらい痕が残るか
- ・薄くなるまでの期間
- ・写真などの実例

● 灸点紙（薄い保護シール）のお灸との違い

最近は皮膚を保護する灸点紙を使うことが多いのですが、

- ・数十年来の重症花粉症には灸点紙では効きにくい
- ・透熱灸は灸点紙のお灸の2～5倍の効果がある

ただし、灸点紙を使っても火傷のリスクは完全には防げないため、事前説明は必須です。

■ 【症例】

40歳女性。幼少期から通年アレルギー（猫、動物全般、花粉、ハウスダスト、リンゴ、桃、ヒノキ、杉、カニ、蛾、ブタクサ、イネ科の雑草など）で目・鼻・喉が腫れる。抗ヒスタミンを通年服用するも徐々に効かなくなってきたので来院。

R 6年5月から杉花粉の舌下免疫療法を開始。

R 6年7月から週1回の透熱灸による花粉症治療を開始。

R 7年の1月、通常なら発症するが症状出ず、抗ヒスタミン剤も服用せず。時に点眼薬を使用する程度。杉花粉の舌下免疫療法はR 7年12月現在も継続中だが、抗ヒスタミン剤の通年服用はしていない。

R 7年の夏秋もアレルギー症状は出なかった。舌下免疫療法はスギ花粉のみなので、それ以外のアレルギーに関しては、施灸による効果と考えられる。

ぜひお試しあれ！

（福岡市鍼灸師会 早良区会員 パコ・モグ鍼灸院：平野 木代衣）

【健康フェア活動】

地域の健康フェア活動

地域の健康フェア活動をご紹介します。

● 大牟田みんなの健康展'25 ●

令和7年9月14日、大牟田文化会館において、大牟田みんなの健康展'25が開催されました。

大牟田鍼灸マッサージ師会は「はりきゅう相談」と銘打ち、鍼の体験コーナーを設けました。今年は6名の会員が協力し、合計52名の来場者に短時間の鍼治療を体験していただき、地域の皆さんに実際の鍼を体感していただくことで、鍼灸の魅力を直接お伝えする機会となりました。

体験に訪れた方の主訴としては、腰痛や肩こりといった慢性的な不調が多く、美容を目的とした施術に関心を持つ方や、「一度鍼を試してみたい」と体験そのものを楽しみにされている方も少なくありませんでした。鍼灸への関心が、従来の治療目的にとどまらず、美容や健康増進といった幅広い分野に広がっていることを感じられる内容でした。



施術内容は、腰部や肩部、頸部への鍼、美容を目的とした顔面への鍼、さらにはリラクゼーションを目的とした施術など多岐にわたりました。体験後には「体が軽くなった」「肩が楽になった」「リラックスできた」といった感想が寄せられ、短時間ながら鍼灸の効果を実感していただけた様子がうかがえました。

当日は6名の会員が交代で対応し、来場者一人ひとりに丁寧に施術を行いました。

体験に参加された52名という人数は、地域における鍼灸への関心の高さを示すとともに、こうした催しが市民の健康意識向上に役立っていることを実感させるものでした。



今回の取り組みを通じて、鍼灸の効果や可能性を多くの方に知っていただくことができました。

今後も大牟田鍼灸マッサージ師会は、市民に寄り添いながら、健康づくりに貢献できる活動を続けてまいります。

(大牟田鍼灸マッサージ師会 会長：賀久 哲也)

【健康フェア活動】

● 第39回古賀市健康福祉まつり ●

第39回古賀市健康福祉まつりに宗像糟屋鍼灸マッサージ師会主催ではり・マッサージ体験・健康相談のブースを設け、鍼灸・マッサージの普及活動をおこなった。

イベント前日、午後3:30より矢津田・浦野・日野で運搬、現地に資材を搬入後、設営等の準備をおこなった。ベッド4台、椅子4脚の配置で翌日に臨むことにした。

当日、本会から坂井、日野、穂坂、矢津田、本田千佳、本田君燕、古賀市の鍼灸師・坂井（坂井息子）、福岡医療専門学校学生・横田が参加。（計8名）

午前9:00に集合し、ポスター等展示、当日の流れ・注意事項等の説明をおこない10:00より受付開始。

一人あたりの施術時間は15分程度という申し合わせでスタートした。

体験者は途切れることなく14:00で受け付け終了。（12:00～12:45昼休憩）最終的に体験者数120名であった。終了後片付けをおこない、14:30に解散した。



【健康フェア活動】

● 筑紫高校OB座談会 ~鍼灸師の道、第二の人生について~ ● 令和7年10月12日

開催場所 福岡県立筑紫高等学校

筑紫高校OBOG座談会という企画に参加し、約20名の2年生を対象に50分間の講演を2回実施しました。

合計参加者は約45名。今回で6回目の参加となります。

内容としては、サラリーマンを辞め、第二の人生として鍼灸師の道を選んだ経過鍼灸師の仕事の内容、充実感、達成感、商売として成り立つのか、などについて話した上で、質疑応答に対応しました。

後日頂いたフィードバックでは、「鍼灸師という仕事に興味を持った」、「理学療法士を目指していたが鍼灸師も考えてみたい」などの声もあり、今まで鍼灸というものを全く知らなかった高校生に、鍼灸師という仕事を伝えることが出来て良かったと思います。

また、来年以降も時間が許せば参加したいと考えております。



(福岡市鍼灸師会南区支部長 いぶき館鍼灸治療院：森藤 誠司)

【健康フェア活動】

● 南しょっとフェスタ鍼灸マッサージ普及活動 令和7年11月9日 ●

会場 南しょっとセンター

福間南地域の南しょっとフェスタにて鍼灸マッサージの無料体験を行った。昨年は日鍼会福岡大会のため実施できず、2年ぶりの開催。

前日15時00分より、日野・浦野・中村の3名で会場の設営、準備をおこなった。

当日、9時00分に会場に集合。参加者は中村・豊田・日野・浦野・本田君燕の計5名で臨んだ。セイリン株式会社より、こりスポット等の提供を受けた。

会場は福間南小正門向かいにある南しょっとセンターの講堂で、水光会病院のリハビリテーション室と広い空間を半分ずつシェアし使用した。はりきゅう体験コーナー体験者は施術者が少ないのでかわらず、47名を数えた。体験者に本会自主制作の普及チラシを配布し、はりきゅうマッサージの啓蒙活動に加え、本会所属治療院の紹介もおこなった。弁当・お茶は主催者から提供して頂いた。



(宗像糟屋師会 会長：矢津田 善仁)

【健康フェア活動】

● 第24回 健康21世紀福岡県大会 ●

【日時】令和7年9月14日（日）10～16時

【会場】久留米シティプラザ 六角堂広場（久留米市六ツ門町8-1）

【参加者】池田沢子、入部昇、梶原旬矢、谷口成彦、山田竹弘（久留米師会）、

木下修次（八女師会）、伊藤由香里（筑紫師会）

遠藤誠、矢津田善仁（県師会） 計9名

【体験者】102名



大会前日16時半から事前準備。矢津田・梶原にて当日の物品・ベッド等の搬入と設営を行う。会場は久留米シティプラザ（ホール会場）に附設された屋根付きとはいえ屋外広場のため、夜半から当日にかけての小雨予報と蒸し暑さが心配。アーケードのある商店街に隣接し、人通りはそれなり。当日はシティプラザの方で大きな演劇もある予定。1時間程度で設営と雨の用心まで済ませ、近くの久留米豚骨ラーメンの名店「花畠丸福」にて舌鼓をうって解散。

当日の朝、雨も予報より早く上がり、どんより雲がかかる程度。9時集合にして全員で設営を行う。当初、児はり・スキンタッチ教室用に簡易畳敷きのスペースを確保していたが、利用者が見込めないことや場所が狭いため割愛（要望があればベッドで行う）し、ベッド3台、受付と物品のテーブル2台を設置。壁にポスターや、災害鍼灸のポスター発表などを貼り、県師会の幟旗を立てる。「はじめての鍼灸」の小冊子や、久留米師会会員の一覧などの配布物を用意している間に、バタバタと10時の開会を迎える。

受付の際のポイントとしては、マッサージ免許所持者が限られることや、施術希望を訊くと「マッサージ」に偏るおそれがあるため、できるだけ鍼や施術者にお任せかを勧めるようにした。





予想外（？）なことに会場全体が終始大盛況。どこでこのイベントを知ったのやら、結構な人が来ている。我々のブースも、開始早々から体験者がポツポツと集まりだし、そのまま数人が常時、受付周辺で並んでいる状態になった。順調に施術体験を積み重ねていく中で、ちょっと困ったのは会場の蒸し暑さ。屋根付きとはいえ屋外なので空調はなく、大型扇風機がいくつか回って搅拌してくれるだけ。次回は屋内を希望したい。

途中、交代しながら休憩。商店街なので飲食店もちらほらあるが、隣接するシティプラザ1階にあるスリランカカレーの名店「ライオンカレー」で、また汗かきながら英気を養った。鳥栖の本店が有名で数回訪れたが、久留米店には今回初めて。たいへん美味しかったので、ぜひおすすめしたい。

13時過ぎにブースPRのため、矢津田・梶原がステージにてPR。施術でバタバタしあまり考えなしの梶原が、思いついたことを喋るだけでちょっと失敗だったと反省。カレー食べてる場合じゃなかった！うどんの岡澤アキラさんが司会されていて、いくつか会話もしていただいたのだけど、記憶に残っているのは身長が高かったことだけであった。

終盤14時過ぎには芸人の「みやぞん」さん登場。ビール祭りや日本酒フェスタにも負けないくらいお客様がごった返していた。

おそるべしみやぞん。



大会が16時までのため、15時過ぎには受付を止め、順番待ちの体験者を施術していると、あれだけ多かったお客様もだいぶ引いてきて終了時間となった。最終的には102名の体験者数。

ベッド3台、6時間のブースとしてはなかなかの忙しさだったのではないか。多様な方々に施術を体験する機会を設けられたことは、今後につながると共に、施術者も治療院を飛び出し、時間や道具が限られた中で施術することや、他の会員の施術風景を垣間見れたことは、大きな学びの機会となった。

(久留米師会 会長：梶原 旬矢)



【健康フェア活動】

● 親子スキンタッチ教室 令和7年8月25日 ●

会場 たねばこ（まちの保健室）

0歳児を育てる5組の親子を対象に、スプレー・歯ブラシ・ドライヤーを使った家庭でできるスキンタッチ法を紹介しました。

薬に頼らず自宅でできるケアが知りたい、子供の癪がひどい、などのお悩みに対して、東洋医学の考え方を伝えました。



教室終了後には、小児はりの無料体験を実施しました。

参加者全員が「小児はりは初めて聞いた」とのことでしたが、実際に体験してみて「気持ちよさそう」「鍼灸院でもやってみたい」などの感想があり、興味を持っていただけました。

(福岡市鍼灸師会：端場 真美弥)

～事務局より～

【保険書類提出のお願い】

いつもご協力ありがとうございます。このたび職員の入れ替えがあり、至らない点があるかと存じますが、何卒ご理解をお願い致します。

【提出期限】

毎月7日 必着 ※7日が休日の場合は、翌日が期限となります。

皆様からお預かりした大切な保険書類は、事務担当者が順次確認・点検を行っております。恐れ入りますが、期限を過ぎての提出は翌月の処理とさせて頂きます。また、1月（お正月）・5月（GW）は出勤日数が少なくなり、通常より手続きにお時間がかかる場合があります。お早めのご提出にご協力をお願い致します。

公益社団法人 福岡県鍼灸マッサージ師会

〒812-0022 福岡市博多区神屋町 2-4 フラワービル 2階

TEL 092-409-5877 FAX 092-409-5878

<http://fukuokahariq-pref.org/>

令和8年1月 発行

発行責任者 仲嶋 隆史